

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 リッケラボ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026/3/1	～	2026/3/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2026/3/1	～	2026/3/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/31		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	・室内では児童一人ひとりに合わせた活動スペースを確保している。屋外では体を動かすことができるスペースを十分に確保し、のびのび活動することができるよう配慮している。	・今後も児童に合わせた活動スペースの確保に取り組み、児童が心地よく、のびのびと活動、生活することができる空間を提供したい。
2	・定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	・前年度からInstagramで活動の様子などを発信し、保護者様へ周知してもらえよう努めている。	・今後はInstagramだけでなく、広報などの発信も検討していきながら、保護者様へ活動概要、行事などの発信ができるよう努めていきたい。
3	・こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	・子供の困り感、保護者様の困り感などをその都度共有、面談や定期的モニタリングで話し合いを通しながらその児童にあった支援、配慮ができるよう努めている。	・今後も継続的に定期的モニタリングや面談、送迎時の申し送り等で保護者様、児童の困り感の解決に努めていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	・令和7年度は家族会、保護者会を開催することができずにいた。	・令和8年度は家族会を開催することができるよう計画を立て、調整を進めていく。その後、生活空間の周知、各マニュアルの説明などをし、理解を得た上で事業所運営をしていけるよう努めていきたい。
2	・生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	・生活空間は整えられていると感じているが、実際に保護者様を招待などする機会がなく、周知する機会が少ない。	
3	・事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	・各マニュアルを作成しているが、保護者様へ向けて説明をする機会を儲けることができていない。また、保護者様からの理解を得ていない状態にある。	

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 リックラボ

公表日 2021/3/31

利用児童

数 3

回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2 職員の配置数は適切だと思いますか。	3					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく簡便化された環境になっている と思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バ リアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いま すか。	2			1		事業所での体験がこどもにとって生 活空間の確認をもらいつつ、屋外 での活動については危険回避に努めま す。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いま すか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いま すか。	3					
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある 支援が受けられていると思いますか。	3					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内 容と合っていると思いますか。	2			1		・保護者様へ支援プログラム、支援内 容を周知してもらえよう努めてい きます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観 的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成さ れていると思いますか。	3					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され 、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2			1		・個別支援計画の説明の際に、「本人 支援」「家族支援」「移行支援」につ いて丁寧に説明していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	2			1		・活動プログラムを発信し、どのよ うな活動に取り組んでいるかの周知へ努 めます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこ どもと活動する機会がありますか。	2			1		・保育園やこども園、幼稚園等との交 流をすることに努め、交流があった際 にはしっかりと発信していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等 について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	3					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレー ニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われ ていますか。	3					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の 状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか 。	3					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士 の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。ま た、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の 交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされています か。	1			2	入所もないのでわかりません。 これから楽しみにしています。	・保護者会の開催を検討し、保護者同 士の交流ができるよう努めていきま す。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備され ているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があること について周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に 対応されていますか。	3					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされ ていると思いますか。	3					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連 絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者 に対して発信されていますか。	2			1		・定期的にSNSの発信、HPの更新を していきます。
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3						
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故対応マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マ ニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説 明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されています か。	3					
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必 要な訓練が行われていますか。	2			1		・避難訓練についてはSNS等で発信してい るが、今後SNSが見れない保護者様へ 他の方法で訓練していることを発信す ることに努めていきます。
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知され る等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思 いますか。	3					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな通 絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いま すか。	3					
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29 事業所の支援に満足していますか。	3					

公表 養所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026/3/31			
リッケラボ (児童発達支援支援)					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	指定基準に基づき支援スペースを確保している。	引き続き利用児童の状況に合わせた支援スペースの確保に努める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	指定基準に基づき職員の人員配置を行なっている。	職員の基準人員に加えて1名の指導員を配置している。今後もこどもの状態に応じた職員配置を行う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	靴、荷物の置き場所、おもちゃや備品の片付け場所などわかりやすく視覚化する等の工夫を行なっている。	状況に応じて日々安全確認を行い、視覚化等の工夫を行なっていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		日々の清掃に加え、大掃除を定期的に行う。クレーンやウォーターサーバーなどは専門の業者に入ってもらいメンテナンスを行なっている。	引き続き清潔な環境を維持していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや、個別の面談が必要な場合に活用できる部屋を設けている。	引き続き個別対応のできる部屋を確保する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	年度初めに目標設定を行い、一年を通して評価、分析、改善のサイクルを実施している。	引き続き実施しているサイクルを実行していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者からの評価表を職員で読み合わせ、把握し業務改善に繋げている。	引き続き保護者の意向を確認し、改善していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		定期的に管理者対職員の面談の機会を設け、意見を聞きながら改善に努めている。	引き続き職員の面談を設け、個別での擦り合わせを継続していく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者による評価を行っていない。	今後、第三者による評価を検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	法人内の研修に加えて外部の研修への参加も積極的に行なっている。	引き続き、研修の機会を設ける他、常に制度や支援方法のアップデートを行う。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		通知に沿って支援プログラムの作成、公表を行った。	定期的に支援プログラムと支援の実態があっているかの確認を行う。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		日々のこどもの関わりの中でのアセスメント、定期的な保護者との面談からの聞き取りを踏まえて計画を作成している。	引き続き制度に基づく支援計画の作成に取り組む。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎日のMTGの中で共通認識を図るとともに、支援会議で計画作成のための聞き取りや計画の共有を行っている。	引き続き毎日のMTGを大切に職員間での共有を行う。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援会議で計画作成のための聞き取りや計画の共有を行っている。また、支援記録のフォームにて毎日計画を見ることになっている。	引き続き、計画に沿った支援を行なっていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		サービス利用計画に照らし合わせた評価の他に、当事業所の個別支援計画やアセスメントシートから評価を行うこともある。	引き続き細やかなアセスメントを行なっていく。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援支援計画において、それぞれの項目に該当する支援内容を盛り込んでいる。	移行支援や、地域連携についてさらに工夫できることがないか、協議し内容を深めていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		平日の活動も振り返りを行いながら改善点があれば、適時こどもにあった活動を計画している。また、長期休みなどの活動を全職員で話し合いながら通所児童にあった活動を考えている。	引き続き全職員で活動の立案を行なっていく。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		長期休みなどの活動を全職員で話し合いながら通所児童にあった活動を考えている。	引き続き全職員で活動が固定化しないように話し合いを行なっていく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の特性やその日の状態に合わせながら、個別活動と集団活動の支援を組み合わせで支援している。	今後ニーズに応じて個別の対応の質向上に向けて、調整を行なっていく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日支援前MTGを行い、支援児童や役割分担を行い、支援中も連携を取り合いながら確認を行なっている。	引き続き毎日のMTGで確認していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	毎日のMTGにて、前日の支援の振り返りや確認を行い、当日の支援につなげている。	引き続き毎日のMTGで確認していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		ICTを活用し、統一したフォーマットで記録の細やかさと効率化も行いながら漏れのないように2重チェックをするなど日々努めている。	今後、記録の質の向上に努める。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングに加えて、保護者や相談員、学校からの希望に沿って会議やモニタリングを行なっている。	引き続き、定期的なモニタリングを基に支援計画の更新を行なっていく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026/3/31				
リックラボ (児童発達支援)						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	5		基本的に児童発達管理責任者、必要に応じて対象児童と信頼関係のある職員が会議に参加し、会議内容を共有している。	引き続き同様な対応を行なっていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		新年度に毎年各機関に挨拶を行い、日常的に福祉課、教育委員会、こども課(行政)や各学校と連携体制ができていく。	引き続き、現行の体制を継続していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて会議や顔合わせを行い、送迎調整やトラブル時などその都度調整を行なっている。	引き続き密な連絡調整を行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		就学移行時には、担当者会議を持ち就学先と保護者の意向を確認しながら情報共有を行っている。	引き続き、定年に連携を行う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		地域に児童発達支援センターがないため、相談員や大学教授などの有識者からスーパーバイズを受けることがある。	地域に児童発達支援センターの設置を市に依頼していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		他事業所の児童との交流を定期的に行なっている。	引き続き事業所以外の地域のこどもと関わる機会を定期的に設ける。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎の申し送りや定期的な面談でこどもの情報を確認したりリッकेでの様子を伝えしている。	引き続き保護者と共通理解を持てる機会を確保していく。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	保護者むけの研修等の周知を行うことがある。	保護者に有益な情報がないか日々情報収集に努め、共有していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時や加算等で、負担額に変更がある場合に説明している。	引き続き、丁寧に説明していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		支援計画を作成する際に、面談や本人からの聞き取り等アセスメントしながら日々の支援でもこどもの意向を確認しながら支援を行なっている。	引き続きこどもや保護者の意向を確認しながらサービスの提供にあたる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		支援計画の内容を確認してもらい、同意を得ている。内容に変更の希望がある場合は修正している。	引き続き、丁寧に説明し計画の同意を得ていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者からの希望や、事業所が必要と感じた場合に定期面談とは別で機会を設けて助言や話し合いを行なっている。	引き続き、丁寧な支援を行なっていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	令和7年度は開催できていない。	令和8年度に開催できるよう持ち方を検討し計画を進める。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情に対する体制の整備をおこなっている。	常に苦情解決の窓口の体制を確認する。
	41	定期的に通信等が発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HPやSNSを通じて活動やイベントの様子を発信している。	周知回数を増やすほか、内容も改善を進めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		ネットやPCにセキュリティをかけている他、紙媒体の資料についてはキャビネットに保管している。	引き続き、十分に注意する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		こどもや保護者に対して、理解し職員で共有して配慮して情報伝達を行なっている。	引き続き、十分に行き届いた配慮を行う。
非常時の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	民生員や地域の議員や住民が事業所見学を行ったり、日頃から開いた運営を行なっている。	今後はイベントへの招待など定期的に地域住民が参加できる機会を設けていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルを策定して、職員に周知している。	今後保護者に周知をする場面を設けていくように努める。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		管理者の集まりでBCPを策定し、定期的に確認、見直しを行なっている。	訓練の中に保護者との連絡も今後取り入れていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握しているか。	5		緊急時対応記録表を作成し、定期的に保護者にこどもの状況報告も協力をお願いしている。	引き続き、定期的に確認を行う。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		与薬を含め保護者からの申し出(医師の指示書通り)の対応を行なっている。	引き続き、アレルギー対応には十分な注意を払っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全マニュアルを作成し、定期的に事業所の安全確認を行なっている。	安全計画を毎年見直し、環境や利用児童にあつたものにアップデートしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全マニュアルに基づき、保護者との連絡体制について共通認識をもって対応している。	安全マニュアルを周知する機会を定期的に設けていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットはすべて共有の知識としての検討を行っている。また、定期的なまとめとしてヒヤリハットを共有し対策の振り返りを行なっている。	引き続き、ヒヤリハットを共有し、対応策の検討を継続していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		社内の虐待防止研修の他、外部の虐待防止研修に参加する等の機会を設けている。	引き続き、研修を進める他、お互いに日々の虐待防止に向け全員で連携して支援にあたる。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束が必要な該当児童がない。	今後該当児童を受け入れる場合に、必要な対応を適切に行う。	